
共同研究中間報告書

ローカル中小企業の国際化:いかにして海外市場を創造するか

Globalization of Local SMEs: How to Create Foreign Markets

内田 亨^{*}、藤田美幸[†]、小宮山智志[†]、藤瀬武彦^{*}

Toru Uchida, Miyuki Fujita, Satoshi Komiyama, Takehiko Fujise

研究の概要と今後の予定

2023年度は、国際化するための内部経営資源を VRIO (Value, Rarity, Inimitability, Organization) フレームワークによって分析する。

対象は前回の共同研究で取り上げた株式会社新潟クボタで、研究方法としては、二次資料の渉猟、それらを VRIO フレームワークに基づきコーディングする。

すでに、今年度の本学の『経営情報学部研究紀要』では、同社のグローバル展開を CAGE (Cultural, Administrative and Political, Geographical, Economic) フレームワークによって分析している。そこで今後、グローバル展開を継続的にしていくためには、内部経営を VRIO の視点からどのような内部経営資源が原動力となっているか明らかにしていく。

2024年度は、新潟の中堅・中小企業を対象に、VRIO もしくは CAGE のフレームワークから分析を行い、国際化の事例を蓄積していく。そして、ローカルの中堅・中小企業による海外市場の創造には、どのようなパターンがあるのか明らかにしていく。現在までのところ、対象企業は、株式会社ユニークワン、ナミックス株式会社、株式会社新潟クボタ、株式会社 PNH、株式会社くみ農産、亀田製菓株式会社の6社を考えている。

^{*} 新潟国際情報大学経営情報学部経営学科 教授

[†] 新潟国際情報大学経営情報学部経営学科 准教授